MailBox
メールボックス

経済同友会出向者からの近況報告 #8

From : 浜谷 英一

復興庁 宮城復興局 政策調査官

To：経済同友会

Subject：東北の魅力

昨年４月に復興庁宮城復興局に着任して以来、約１年がたちました。その前月まで横浜みなとみらい21地区で街づくり、主にエリアマネジメントに携わっていた私としては、まったく異分野の世界であり、当初は戸惑いもありました。

宮城復興局は50人ほどの組織で、私のような企業からの出向者は少数派です。多くは各省庁からの方で、ほかに自治体のベテランOBの方など、さまざまな経験を積まれた方で構成され、いい意味で刺激の多い毎日です。

多岐にわたる復興庁の業務の中で、私の主な業務は、国費である復興交付金を市町に適切に配分するための技術的支援です。担当する宮城県気仙沼市、同南三陸町、同塩釜市、同多賀城市、同名取市には、頻繁に足を運んでいます。

三菱地所に入社してから20年、土木の設計監理業務を経験してきました。仙台市の泉パークタウンの設計も担当し、仙台は多少の縁はありました。それでも、設計監理部門を離れて環境やCSRといった業務経験が長くなっていただけに、忘れかけていた土木の世界を思い出しつつ業務に取り組んでいます。

担当する市町では現在も嵩上げや防潮堤、道路や下水道といったダイナミックな土木工事が盛んに行われています。これらの工程調整も復興局の業務の一つです。国道を高い位置に付け替えるなど、多くの大規模土木工事が集中する現場は、国内でもあまり見られないのではないでしょうか。その意味でも得難い経験をさせていただいています。

ハードの整備が続く一方、復興・創生期間に入った現在、被災地では、整備後の街にいかに賑わいを形成し、活性化していくかというソフト的な施策に重点が移ってきています。土地区画整理事業でできた宅地を空地にせず、交流を生み出す「活きた」街にするために、これまでの経験が活かせたらと思っています。

一方で、被災地の事業者と大手企業とのビジネスマッチングを図る地域復興マッチング「結の場」も担当しています。昨年10月に名取市、また11月に宮城県岩沼市で開催された「結の場」では、テーブルファシリテーターを務めました。名取市では閖上地区の水産加工業の企業が地元被災地事業者として参加しました。多くの方に閖上に来ていただき、他都市とも連携しながら楽しく回遊してもらうにはどうしたらよいかといった課題に対し、大手企業から多くのアイデアを頂きました。それらをもとに、地元企業と大手企業との結び付きの実現に向けて、これからも取り組んでいきます。

東北に来て、現地のおいしいものをいただく機会も増えました。気仙沼市で食べた「モウカの星（サメの心臓の刺身）」や「ハーモニカ（メカジキの背びれ付け根部分）」は絶品です。また、冬の時期、名取市名産のセリを使った「セリ鍋」もお勧めです。東北には魅力がいっぱいです。皆さまもぜひ、足をお運びください。

南気仙沼地区
土地区画整理事業

仙台セリ鍋